

# くらがの

発行所 倉賀野神社  
〒370-1201  
群馬県高崎市倉賀野町1263番地  
電話 027-346-2158  
FAX 027-346-2184  
例祭（秋季大祭）10月19日  
春季大祭 4月19日  
公式ホームページ www.chinju.info/

秋祭り恒例の「中学生神輿」。倉賀野中の生徒百余名が行列に参加した。



旧中山道脇本陣前で行列を見送る小学一年生たち。



「浦安の舞」倉賀野中生徒による



神社では四季折々に伝統の祭りが受け継がれます。祭りは、そこにどう人々の心が通い合う喜びの日でもあります。今年も春祭りの季節を迎えました。（写真はいずれも平成二十七年倉賀野神社秋季例大祭から）

## 鎮守の祭り



祭りの朝、雅楽の音に導かれて神社に昇殿し厳粛に儀式が始まる。



神社附属太々神楽保存会による神楽奉納。舞の合間には参拝者に餅やお菓子がふるまわれる。

氏子・崇敬者の皆様には益々ご清栄のこととお願い申し上げます。

幕末の倉賀野の人に、飯塚久敏という文人がいました。和歌や国学に秀でた人で、歌集『かきつのはるかさ』に五二六首を残しています。その中に、「夏祓」と題した三首。

みそぎしてすゞしくなりぬいぶぎどのおきその風や世にわたりけん  
みそぎしてすゞしくなりぬおもふ空やすの川風に  
身におぼえつゝ、  
罪という罪はよどまじ麻の葉のながれてはやき  
滝川のせに

「いぶぎどの」の歌。氣吹戸主という神様がかすかに息を吹くとそれが風となつて罪やけがれを隅々まで祓い遣る、そのような情景でしょうか。

「やすの川風」の歌は、「天の岩戸開き」のときに高天原の神々が天安河原に集う場面が浮かんできます。また、「麻」は昔から神様へのお供え物であるとともに、祓えの具として用いられてきました。川辺に禊をしたことから「夏祓」と題したのでしょう。こんにち神社で六月の晦日におこなわれる「夏越大祓」が思い起こされます。

日本人の神を敬う心は、儀式や祭りを継承し、神話や和歌を語り伝えることで、日常生活の中に自然に培われてきたものと思います。久敏の「みそぎしてすゞしくなりぬ」のすがすがしい心地をお伝えしたいの思いから、挨拶にかえここにご紹介した次第です。



地面から桜の花  
甲子大黒天様のそばで。よく見ると、近くの桜の古木の根がこんもり地上に盛り上がっていた。

## 四季のたより

神饌田にナズナ  
声が聞こえた。「おい、ぺんぺん草と笑うな！おいらは神様の田んぼに生えているんだぞ！」  
六月にはここで御田植祭が行われる。



## 倉賀野神社奉賛会のご案内

奉賛会の会費御浄財は(1)祭典の執行、(2)文化財の維持保全、(3)伝統芸能の継承、(4)鎮守の杜の保護育成などに大切に活用されます。

すでにご加入いただいている皆様には日頃のあたたかいご協力で心から感謝申し上げます。また新規にご縁をいただく皆様にも、どうぞ広く奉賛会にご加入くださいまして、大神様の厚い御神徳をいただきますようご祈念申し上げます。

奉賛会	年会費
○正会員	一口 二千元
○特別会員	一口 一万円

会員の皆様のお手元に春祈禱の御神札、撤饌、本紙（社報『くらがの』）をお届けいたします。お問い合わせ・お申し込みはどうぞ近所の神社総代、または直接社務所までご連絡ください。

社務所 ☎ 027(346)2158

祝祭日には国旗日の丸を掲げましょう。

▼御本殿瑞垣の瓦屋根が損傷  
御本殿の周囲をコの字型に囲う瑞垣（透き塀）の瓦屋根が広い範囲で傷んできてしまいました。瓦や漆喰が経年劣化していたところへ、二年前の大雪、さらに今冬の積雪が影響したと思われる。現在、屋根全体の修理に向けて早急に準備を進めているところである。

皆様の御協力・御支援を切にお願い申し上げます。



▼ランドセルお祓い式  
毎年恒例の勸学祭・ランドセルお祓い式が三月六日に行われました。新入学の児童が神社に集合し、通学安全と学業成就を祈願しました。



▼倉賀野町のおもな祭りと行事

四月八日 横町冠稲荷大祭  
四月八日 安楽寺花祭り  
五月五日 上町山車巡行  
七月第二日曜 仲町天王祭り  
八月十六日 下町山車巡行  
八月二十二日 田屋町八幡神社大祭  
八月二十六日 下町諏訪神社大祭  
十一月三日 倉賀野城十六騎武者行列  
十一月 南町山車巡行

編集後記▼本紙三頁の「七百年大祭」の写真を額からはずすと、裏当ての古新聞が出てきた。昭和三十三年八月と九月の毎日新聞だ。▽五十八年前のスポーツ記事は、稲尾の活躍で「西鉄、南海を連破」。夏の甲子園はきょう準決勝の試合で「作新学院・徳島商」と「高知商・柳井高」。▽九月十四日の一面は、「教育ストあすに迫る」の大見出し。勤務評定に反対する日教組の「授業放棄／各地の動き」を報じている。▽連載中の吉川栄治「私本太平記」は第二〇五回。活字が米粒のように小さく見える。そして「週刊大衆」九月一日号の広告は「天才画家山下清の盛り場ルポ」。

▽ラヂオ欄は、NHK夜六時台に「二丁目一番地」、テレビ欄の「私の秘密」ではゲストに伴淳三郎の名が見える（三才の小職の家にTVが来るのは、もつとあと）。▽大祭を無事に終えて、和やかな直会の席。緊張もほぐれて余談にこんな話題が出ていたかも。（直）



# 手帳の中から

倉賀野神社総代会長  
高橋義明

神が鬚を抜き、撒いて杉の木を作る、胸毛を塗って松を作り、尻の毛で槓を、眉の毛は樟の木に変える。そして食べる木の実の種を八十種も撒いて下さった。「日本書紀」に書いてあります。

人は神を畏れ、感謝の祈りを捧げる。神代の昔から日本では生命を持たないものにも神が宿ると信じて、山や森、星や風、川や岩・・・自然に神を感じ敬ってきました。

狛師や樵といった山で暮らす人には、部落の長老が夜話で「山神腹立之日」「木之泣日」「土鳴日」「水鳴日」などを教え、神に守られて、生きていくための掟があったといひます。木を伐りつくしたり、鳥や獣も狩り尽くさぬための定めでもあります。

海や川で生活する人にもそんな教えや、いい伝えがあったでしょう。村や町の人は祭りの中で神を敬い、祈りを捧げ、その祈りによって平安と祝福が得られると伝え守ってきたのです。

時代が代わり、人々の生活も変わりました。

祭りの中には作法や習慣になつていく無駄に見える「必要な無駄」があります。古くから続いているしきたりや立ち振舞です。しかし亡びないものは亡びてはならない理由があるはずで、それが伝えて行かなければ失われてしまう技と伝統なんです。

福祉、国語辞典には「人々がみちたりに暮らしてできる生活環境、またそのような生活環境を実現するためにとる施策、方策」とあります。しかし二ツの文字には神を表す示偏がついておられます。捧げ物を盛った台のことです。福の字の傍はたつぷり入った酒樽の象形文字だといひます。社の文字は神が留まり福を授けるという意味なのだといひます。

祭りの中で「捧げる」「授かる」幸せになるのです。だから神事の後の直会の宴はイベントの反省会や打ち上げの宴会とは違うのです。

古い手帳からの書き写しもあり、ますので文章にまとまりがありません。私の見聞した神と祭りのチョットしたい話です。

## 古記録探索 昭和三十三年（一九五八） 「御造営七百年大祭」

ここに見るのは、今から五十八年前の昭和三十三年「倉賀野神社御造営七百年大祭 祭典委員一同」と題した集合写真である。

倉賀野神社は、第十代崇神天皇の御代に、皇子の豊城入彦命が祭祀をなされたという御事跡が伝わり、今から二千年の昔のことといわれる。一帯は往古より「宮原庄」と呼ばれていた。大同二年（八〇七）に坂上田村麿が東征凱旋の途次、造営舞樂を奏上したという伝承がある。

やがて建長五年（一一五三）、武州児玉党余流の倉賀野三郎左衛門尉高俊の領知するところとなり、社殿が造営された。建長の御造営以来この地に度々の修復・造営が繰り返され、七百年を経過した。その節目の「御造営七百年大祭」は大戦後の混乱、困窮からようやく抜け出した後の昭和三十三年（一九五八）に挙行された。

最前列中央が高木明宮司、右隣に杖の須賀保三総代会長、その右に大

山房雄町長（当時は高崎市に合併前で、群馬郡倉賀野町）。そのほかにも懐かしいお顔が多く見える。このとき記念事業として氏子町内からの寄附御奉賛を仰ぎ、境内社の冠稲荷神社の移転工事、氏子会館の増築、桜苗木植樹などが行われた。十月十八日には天明神輿の渡御。翌十九日、秋の例祭日に合わせて記念祭典を斎行した。当時の須賀会長



倉賀野神社御造営七百年大祭 祭典委員一同  
昭和三十三年十月吉日

の手記には「神輿は）休憩所で酒は飲まぬ予定であったが、雨天の余りの寒さに酒を取寄せ四升飲む」とある。また十三人の警察官が警備にあたったとも。それから五十年を経て、平成の十七年には「七百年大祭・天明神輿幸祭」が盛大に斎行されたことである。

- ◎例大祭「懸税（かけちから）写真」  
御奉納（平成二十七年十月十九日）
- 河野 學 様
  - 河野 茂 様
  - 五十嵐良一様
  - 須永和昭 様
  - 町田美布 様
  - 町田守章 様
  - 関口 豊 様
  - 渡辺 貴 様
  - 大山善弘 様
  - 宮寺章夫 様
  - 宮寺正明 様
  - 関口 充 様



- ◎祭典御奉納者及び奉賛会特別会員芳名  
（紙面都合上、企業・店舗様等の御名前のみを掲載させていただきました）
- 株式会社キノコ輪大
  - 宮野環境設備株式会社
  - 関東ロックウール株式会社
  - 高崎森永株式会社
  - 株式会社原田
  - 群馬銀行倉賀野支店
  - 高崎市農協倉賀野支店
  - 高崎信用金庫倉賀野支店
  - しのみ信用金庫倉賀野支店
  - 倉賀野郵便局
  - 第一屋製パン株式会社
  - 株式会社社科学飼料研究所
  - 堀米医院
  - 大山小児科医院
  - 松下米穀店

- 有限会社関東印刷 様
- フクダ工業株式会社 様
- 関東礦油株式会社 様
- 株式会社コウシヨウ 様
- 関東電工株式会社 様
- 有限会社武井製作所 様
- 八木工業株式会社 様
- 高崎弁当株式会社 様
- 株式会社綿貫自工 様
- 税理士法人真下経営 様
- 関東いすゞ自動車（株） 様
- 株式会社キンセイ産業 様
- 有限会社高崎プロセス 様
- 平和交通倉賀野営業所 様
- （株）サアソクリエイション 様
- 北関東秩父コンクリート（株） 様
- （株）エーエムコーポレーション 様
- （株）コアエンジニアリング 様
- （株）アドテックス 様
- 須永建設株式会社 様
- 日本化薬株式会社 様
- 冬木工業株式会社 様
- 医療法人井上病院 様
- 株式会社グンシナ 様
- 中央自動車倉庫（株） 様
- 小島石材店 様
- 丁子堂房右衛門様 様
- 今井菓子店 様
- スナック再会 様
- 小料理わたる 様
- 明邦苑 様
- 渡辺電気商会 様
- くらがの動物病院 様

## 春分の朝に

春分の日には太陽が真東に昇ります。暦によれば三月二十日、当地の日の出は五時二十八分のことでした。神社の御社殿は真東を向いているので、日差しが入口からまっすぐに、奥の御本殿の御扉にまで差し込むのです。左写真に見える直線の影は「鈴の緒」が映ったものです。



春分の日は、昭和二十三年の「国民の祝日に関する法律」によれば、「自然をたたえ、生物をいつくしむ」。また、秋分の日には「祖先を敬い、亡くなった人々をしのぶ」とされます。その意義を思い起こし国民の祝日を迎えたいものです。そして我が家の前に、国旗を掲げたいと思います。いっぽうで、戦後の祝日法の制定以前にも、もともと春分の日には「春季皇霊祭」、秋分の日には「秋季皇霊祭」といって、歴代天皇をはじめとする皇室の御祖先をおまつりする日であったということも知っておきたいことです。宮中祭祀は今に続いています。